

婦人用肌着の着用感におよぼす被服圧および接触面積の影響

○山藤利加* 牧祐木子** 山田智子** 伊藤紀子**

(*鳥取大・院 **鳥取大)

【目的】 肌着は直接肌に触れるため、保健衛生上の機能の要求が大きい。また、肌着の微力な物理的刺激に対しても肌は敏感であり、着用感を左右する。本研究では、最近若年層まで広く着用されている婦人用肌着について、圧迫感を中心とした物理的刺激的の量と面積の観点から着用感に関する要因を検討した。

【方法】 ゆとり量、伸長性、人体との接触面積の異なる市販のMサイズの婦人用肌着を使用し、9ARサイズの成人女子10名の被験者に着用させ、上胸部、背部、肩部、側腹部、上腕部、前腕部の被服圧及び肌着と人体の接触面積を測定した。また、肌着の圧迫感を中心とした着用感を調査した。

【結果】 着用感において、肌触り感と総合評価が危険率0.1%で高い相関を示し、肌触り感が着用感を大きく左右していることがわかった。また、着用感の総合評価と上胸部、側腹部、前腕部の被服圧が危険率0.1%で高い相関を示すことから、これらの部位が圧迫されたとき着心地を悪く感じるということがわかった。接触面積と総合評価の間にはほとんど相関は認められなかったが、各部位の被服圧と接触面積から求めた肌着の総計被服圧と着用感に相関が認められた。圧迫を感じる被服圧レベルは、おおよそ上胸部 1.0gf/cm^2 、肩部 2.0gf/cm^2 、側腹部 2.0gf/cm^2 、上腕部 1.0gf/cm^2 、前腕部 1.5gf/cm^2 であり、パンティーストッキングやタイツなどに比べ、はるかに低い被服圧でも不快を感じるということが明らかとなった。